

平成28年度 学校評価

自己評価部門

重点目標

年度報告

平成29年3月11日

鶴見大学附属
中学校・高等学校

目次

目次	1
平成28年度 目標	2
(1) 長期目標 (2) 中期目標	
(3) 平成28年度重点目標 (4) 評価の基準	
(5) 結果	4
学年	4
1 s t ステージ	4
2 n d ステージ	5
3 r d ステージ	6
教科	6
国語科	6
社会科 (地理・歴史／公民)	7
数学科	8
理科	8
英語科	9
保健体育科	10
芸術科	10
家庭科	11
情報科	12
部署	13
生徒指導部	13
学習進路指導部	14
入試広報部	16
教務部	17
事務室	18
管理部門	20

平成28年度 目標

(1) 長期目標（大目標）

自立の精神と心豊かな知性を育み国際社会に貢献できる人間を育てる。

教育目標宣言：「学びの心で世界を変える。」

方針：生徒に自分の「好き」をみつけさせ、夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせる。

(2) 分野及び中期目標（中目標）

1. 中高校としての個性の発信

(1)社会や保護者に向けての情報を提供する。

(2)中学校・受験業界との関係を強化する。

(3)同窓会との連携を強化する。

(4)地域との連携を強化する。

(5)高大連携を強化する。

(6)自校史学習の拠点を整備する。

2. 保護者に信頼される教育の実践

(1)学力の育成と向上：知的好奇心を伸ばし、自ら学ぶ力を身に付ける。

(2)人間形成の実践：禅の精神に基づいて、豊かな心を育む。

(3)国際教育の展開：国際舞台で活躍できるコミュニケーション能力を伸ばす。

(4)生徒の就学支援を充実させる。

(5)施設設備環境の整備をはかる。

3. 総持学園の一員としての生きがいの持てる職場環境

(1)魅力ある職場づくりにつとめる。

(2)コミュニケーションがよい、職場づくりをする。

4. 安定した経営基盤を持つ法人

(1)安定した経営基盤づくりを進める。

(2)目標を掲げた計画的な学校経営をする。

(3)ガバナンスを強化する。

(3) 平成28年度重点目標

① ステージの重点目標

重点目標	自立の精神をもった、人間性豊かな生徒を育てる。
------	-------------------------

② 教科の重点目標

重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。
------	----------------------------

③ 各部署の重点目標

生徒指導部

重点目標	ルールやマナーを守らせ、よりよい学校生活を送れるよう指導・支援する。
------	------------------------------------

学習進路指導部

重点目標	教科エリア型校舎の特長を生かし、「学びから入る進路指導」を実践する。
------	------------------------------------

入試広報部

重点目標	中学入試・高校入試ともに募集定員を確保する。
------	------------------------

教務部

重点目標	教科エリア型校舎のコンセプトを再確認するとともに、施策のテーマを円滑に遂行できるよう、各部署ごとに工夫を重ねる。
------	--

事務室

重点目標	事務職員一人一人が学校の全ての情報を把握できていること。
------	------------------------------

管理部門

重点目標	施策の体系を計画的に実施するために、関係部署と連携を図りながら確実に実行できるよう務める。
------	---

(4) 評価の基準

評価	評価の内容
5	十分な達成度である。
4	ある程度満足のいく達成度である。
3	概ねの達成度である。
2	不満の残る達成度ある。
1	ほとんど達成されていない。

(5) 平成28年度重点目標

① 各ステージの重点目標

1st ステージ

1) 結果

		評価
重点目標	自立の精神をもった、人間性豊かな生徒を育てる。	3. 7
評価項目①	基本的生活・学習習慣を身につけ、Gyro手帳を積極的に活用しながら、自主自立した行動ができるようにする。	3
評価項目②	身体健全に学校生活を過ごし、相手を思いやる心を持って豊かなコミュニケーションがはかれるようにする。	4
評価項目③	目標を持って自らの夢を描けるよう、課外活動に積極的に取り組む姿勢を育む。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	低学年ならではの友人関係やSNSに伴うトラブルは多かったが、そうした出来事を通じて生徒が成長できるように指導、助言した。縦割りの行事はもちろん、日々の学級活動を通して人間形成を促し、学習生活の基盤を作る努力ができた。
評価項目①	小学校生活までの生活習慣や学習に対する意識の違いが多く、1年生の手帳の活用はまだ課題が多く、リズムができていない生徒が目立つ。生活習慣は日々の学校での教えを身につけてきている生徒も多くなってきて2ndでの成長を期待したい。
評価項目②	価値観の違いによるこざりあいや、コミュニケーション不足を伴うトラブルはまだ多いが、担当教員のサポートや助言によって、ご家庭の協力を得た。その場に応じた助言をもって、学校生活での悩みもスムーズに乗り越えられるようにしていった。
評価項目③	課外活動への参加や学年・クラスでの活動には大変活発に参加し、基礎的な学習だけでなく、少しずつだが自分の興味関心を意識できるようになってきた。部活においては両立できるよう、さらに励ましていきたい。

2nd ステージ

1) 結果

		評価
重点目標	自立の精神をもった、人間性豊かな生徒を育てる。	4
評価項目①	常に自己を見つめ、自分と向き合い自己理解を深める。	5
評価項目②	何事にも目標を掲げ、計画を立て、それを強い熱意で実行する自立心を持つ。	4
評価項目③	身の回りの整理整頓は頭の整理整頓、時間の余裕は心の余裕とし実践する。	3
評価項目④	常に素直な気持ちで、人の話をしっかり目で聴き、自己の成長に繋げる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	ステージ目標『自己理解と自立心』の実践のために、日々の黙念を大切にし、自己をしっかりと見つめ、常に目標・計画・熱意をもって行動をさせてきた。自己のあるべき姿を知ることによって、他者への配慮・思いやりの心も持てるようになった。目標を意識することによって、計画や熱意を持つ部分で、ステージ担当者・ステージ生徒とのコミュニケーションも良好に行うことが出来た。
評価項目①	「自己理解」の基本的な姿勢は、常に自分と向き合い、本来の自分をしっかりと見つめることである。そのための時間として、日々の黙念を大切にさせてきた。朝の黙念は今日一日の自分をイメージし計画をさせ、帰りの黙念は一日を振り返り明日に繋げさせるものである。生徒は黙念の時間を大切に考えてくれていた。
評価項目②	ステージ全体で、それぞれの時期での自分の長期・中期・短期目標を考えさせた。①目標を掲げ、②計画を立て、③熱意をもって実行することの大切さを事あることに話してきた。そのことの重要性は理解しているようだが、③熱意をもって実行に移せていない生徒もまだまだいるようであった。
評価項目③	身の回りの整理整頓は頭の整理整頓、時間の余裕は心の余裕であると言いつけた。全体的に実行しようとする意識は高いように思う。しかし、一部の生徒ではあるが、HBの美化や時間厳守への意識が低い者がいた。
評価項目④	全体の前に伝達者が立ったら話を止めて一斉に注目をし、「人の話を目で聴く」ことを徹底させた。これは3学年部・オーストラリア語学研修旅行、4学年部・広島関西体験研修旅行に役立つこととして、常に話してきた。素直な気持ちで人の話を聴くことが、自分のプラスになること、自分の成長につながることを言いつけた。

3rd ステージ

1) 結果

		評価
重点目標	自立の精神をもった、人間性豊かな生徒を育てる。	3. 5
評価項目①	学習意欲の向上を図り、基礎学力を定着させるとともに探求する力を養い、個に応じた進路実現をサポートする。	4
評価項目②	学校行事、部活動等において上級生としてのリーダーシップを発揮させ、グローバル化していく未来を生きる力を育てる。	3
評価項目③	時間厳守、挨拶、HBの整理整頓等、基本的な生活習慣を確立させ、社会で自立して活動していくために必要な資質を身につけさせる。	3
評価項目④	集団生活の中で規律ある態度を養い、誠実で思いやりのある人間性を育てる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	大きく変化していくこれからの社会を主体的にたくましく生き抜くために、豊かな心で自ら学び、考え、判断し問題を解決していく力を身に付けられるよう様々なガイダンスを通して、学年スタッフが一丸となって指導してきた。
評価項目①	5学年部（高2）では将来の進路実現に向けて、日々の授業の大切さを再認識させ、授業に真剣に取り組む姿勢を身につけさせた。Gyro手帳を活用して家庭学習時間調査をし、安定した家庭学習時間を確保させ、「予習⇒授業⇒復習」が習慣化するように指導した。2学期・3学期には、現役大学生による進路ガイダンスを実施した。その結果、自分自身に向き合い誠実に取り組む生徒が増えた。6学年部では、AO、推薦入試の生徒については他学年の先生の協力も得て、ある程度の結果を出すことができた。生徒一人一人の進路希望に対応するため、個に応じた適切な情報の収集・分析に努め、学年全員で共有した。今後は、一般入試に向けて12月から個別に随時進路相談を行い、最後まで受験生に寄り添っていきたい。
評価項目②	学校行事・部活動を通して、チームワークの大切さ・共通の目的に向かうことの大切さ・学年に応じて求められる役割を果たす対応力などが身についた。
評価項目③	学年部スタッフの工夫と積極的な関わりで、時間厳守、挨拶、HBの整理整頓等、当たり前のことを当たり前のように行う基本的な生活習慣が身についた。
評価項目④	特活・HR等において、ルールを守り、互いに認め合い、人の嫌がることをしない、相手の立場になって物事を考える「思いやりの心」を育ててきたが、「自分さえよければいい」「他人のことなどどうでもいい」「自分の思い通りになればいい」という生徒が僅かながらいる。今後も集団生活のルールや「思いやりの心」を育てていきたい。

② 各教科の重点目標

国語科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	4.0
評価項目①	適切な課題と適時な小テストを利用して、知識の定着をはかる。	4
評価項目②	教科エリア型校舎の特性を生かし、専門性の高い授業を確立させる。	4
評価項目③	コースやクラスの違いを踏まえたきめ細かい授業を展開させる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	教室後部掲示物をA Lによる生徒自身が作り上げた作品に転換したことによって、自立的学習の実現のレベルを高めることが出来た。中学私学テスト、高校スタディサポート等の模試受験前には、練習用ノートを課し、計画的な自学自習の基礎を築いた。
評価項目①	中学は全学年各学期毎の配布で「のぞみ」を、高校生は1年・2年生にも「スタディサポート」を配布し、それぞれ学期計画・年間計画で自宅学習の充実を実現した。漢字や文法などの各種小テストも実施し、漢検合格率向上にもつながった。
評価項目②	国語・漢和・古語等の辞典類を授業内で使用させ、語彙の正確な理解・発展的な指導内容となるよう工夫した。プロジェクターの使用頻度を高めて、教材テキスト内容を補助したり、発展的指導につながる視覚情報・聴覚情報を提供し、理解を深めさせた。
評価項目③	中学では主に古典や言語活動分野で、特進には発展的活動を課したり、教科書以外の項目を加えたりした。高校では全コース必要に応じて実際の入試問題を扱ったが、総合進学と特進では難易度の違うものを用意し、また解答解説の詳しさも変えて対応した。

社会科（地理・歴史／公民）

1) 結果

重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	4. 3
評価項目①	地理・歴史・公民の学習を通じた社会的事象への関心を引き出す。	4
評価項目②	アクティブラーニングを通じ、自ら考え、課題を発見する能力を獲得する。	5
評価項目③	1st・2ndステージで修得した知識を活用し、3rdでは演習を中心とした発展的学習を行う。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	今年度は生徒用タブレットの導入により、学習活動の幅が飛躍的に向上した。また、社会科では研究助成を受け、ジグソー法を中心とした授業指導案の作成と生徒への授業実践をすすめており、生徒の自ら課題を発見する能力の獲得に導いた。
評価項目①	例年のことではあるが、社会科は全教員がプロジェクターの活用を通じて、生徒へ学習内容の事物・人物・できごとなどを視覚的に印象付け、授業への強い関心を引き出している。
評価項目②	ジグソー法の学習は、獲得した知識を活用しながら、グループで課題に取り組みせ、協同的な学習を行うことが可能となった。ロイロノートにより、他のグループの発表も速やかにいき、生徒の自発的な学習態度を養うことができた。
評価項目③	低学年では特に小テスト・提出物などを課すことを通じて日々の学習活動を丁寧に行った。また、3rdでは、各授業担当者が連携をとり、総合進学・特進コースともに学習の定着をはかった。

数学科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	3. 7
評価項目①	スパイラル学習により、知識を定着させ、表現力をつける。	4
評価項目②	課題や小テストを利用して、知識の定着をはかる。	3
評価項目③	クラスやコースの違いを踏まえた授業を展開する。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	中学においては、週末ごとに宿題を実施して自学自習の習慣を身につけ、自由課題用の問題集を与えて、自主的に学習することにより自立の精神を養った。高校においては、教科書準拠の問題集以外に、課題プリントを与えたり、参考書を紹介して、自主自立の精神を養った。
評価項目①	中学では、業者テストの事前準備として課題冊子を与え、同じ単元の問題を繰り返して解けるようにした。また、自分自身で答え合わせをして正誤を付けさせ、間違えた問題は反復してやり直すように指導した。高校では、教科書準拠の問題集を利用し、反復学習を心がけた。
評価項目②	中学では、毎週末や長期休暇前に課題を与え、計算力や数学的基礎知識を身につけさせた。課題の未提出者が多く、それらの生徒に対しては、居残り指導を実施し、平常点に反映させたが、顕著な成果は見られなかった。高校では、課題を与えたり、小テストを実施して、基礎力定着を図った。
評価項目③	中学では学年ごとに生徒のクラス移動があるため、進学クラスと難関進学クラスの授業進度は同じにしたが、扱う問題に難易度の差をつけて指導した。特にアドバンスクラスでは、プリント学習を増やし、応用力を養った。高校では、演習問題の量や質でコースにあった指導を行った。

理科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	3. 3
評価項目①	教科エリア型校舎の特性を生かし、専門性の高い授業の確立をはかる。	3
評価項目②	備品を把握し、器具等の充実をはかり、観察実験を工夫する。	4
評価項目③	メディアセンターや展示コーナーの充実をはかる。	3

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	例年通り、メディアセンターに教員作成の各大学の入試問題解答・解説集を準備し、生徒が自由に閲覧・利用できるようにした。また、質問対応の場として十分に機能し、生徒の自発的な学習を促す一助となった。
評価項目①	各教員が工夫して専門性の高い授業を心がけている。しかし、実験室を通常の授業教室として使用しているため、稼働率が非常に高く、実験前の時間の実験準備や後片付けに支障をきたすこともある。
評価項目②	理振法活用により教材・教具の配備を一步進めることができた。しかし依然として、本校の教材・教具の配備は十分とは言える状況にない。
評価項目③	メディアセンターの掲示については例年通りだが、重点目標の総括にあるようにメディアセンターを利用し、生徒の学習を促すことができた。

英語科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	3. 7
評価項目①	英語コミュニケーション能力・姿勢を習得させるため、4技能を意識した授業の確立をはかる。	4
評価項目②	課題や小テストを利用して、知識の定着をはかる。	4
評価項目③	ICT教育を充実させるため、教材、資料、情報の共有化をはかる。	3

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	各教員にタブレットが配布され、授業内でほとんどの教員が使用している。ほとんどの教員が教科教室に適応した授業ができるようになってきた。今後、生徒たちが関心を持つ内容の授業が実践できるように、教科として取り組んでいく。
評価項目①	ICT教育と4技能（読む、書く、話す、聞く）を取り入れる工夫をしながら、授業を実践した。生徒たちにはできるだけ英語に慣れさせ、実践的な英語力を身につけることができるように指導した。徐々にではあるが成果が出てきている。
評価項目②	中学では各教員が日頃より、授業内においてかなりの頻度で小テストを取り入れている。また、火曜日のHR単語テストも定着してきた。今後、より活性化するように教科全体で取り組んでいく。
評価項目③	資料や情報の共有は教科内に各教員のフォルダを作成することにより、昨年よりも向上している。しかし、より利用しやすい環境を教科で整える必要があり、今後も周知徹底を図っていく。

保健体育科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	4. 3
評価項目①	課題や小テストを利用して、知識・技能の定着をはかる。	4
評価項目②	健康や安全を考え、正しい判断の下、行動の選択が出来るようにする。	4
評価項目③	集団的活動や身体表現を通して、コミュニケーション能力を育成する。	5

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	集団的活動を通し、協調性・積極性を養い、自己の目標を持ち熱心に取り組む姿勢がどの学年でも見られた。体育委員やグループリーダーがよく活動し、授業の活性化につながっている。
評価項目①	体育では、反復練習の中でチーム内で教え合うなどのグループ学習を通して、また保健では、プリント課題や小テストの実施、定期テストの振り返り授業などで知識・技能の定着をはかった。
評価項目②	保健の授業において、身体づくりや健康問題・応急処置を学んでいる。けがや事故が起こらないような行動をすることはもちろんのこと、緊急の場合の対応ができるようにすることも心がけた。
評価項目③	体育実技の練習やゲームの進行、ダンスの作品作りなど、グループリーダーを中心に授業を進めることにより、自主性や積極性が増されている。 体育祭では、その成果が出ていたように思える。

芸術科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	4. 3
評価項目①	教科エリア型の特徴生かし、ICT教育の充実をはかり、専門性の高い授業の確立をめざす。	4
評価項目②	メディアセンターや展示コーナーおよび教科教室の充実をはかる。	5
評価項目③	芸術文化についての理解を深め、表現力と技術力の向上をはかると共に豊かな情操を養う。	4
評価項目④	教科の枠組みを越えて連携を深め、広い視野での教育をめざす。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	芸術科では常にアクティブラーニング（能動的学習）はすでに実践されているが、主体的な学びの過程が実現でき、自律の精神を養うことにつながったと感じる。メディアセンターも生徒の作品で充実し、各教室をいかした展示や発表を行うことができた。
評価項目①	音楽では、プロジェクターを使って鑑賞教材を見ることで聴覚だけでなく視覚からも学ぶことができた。美術・書道でも書画カメラやDVDなどを使い鑑賞の授業を充実させることができた。
評価項目②	メディアセンターでは常に生徒の作品を展示し充実させることができた。光華祭ではグループの作品を展示、芸術メディアならではの雰囲気づくりができ、来場者にも好評であった。
評価項目③	音楽：合唱の取り組みでは、混声3部合唱の豊かな響きを味わいながら仲間と歌い合わせることの楽しさを知り、豊かな情操教育につなげることができた。 美術：美術史を学び、日本と世界のつながりや互いに影響し合う、芸術文化の大切さを感じ取った。
評価項目④	2学年部（中2）の美術と書道ではコラボレーションした授業を行い、光華祭で発表することができた。4学年部（高1）の選択音楽ではグループ発表を行い、選択美術と選択書道の生徒が観客として音楽室に集まり批評を行った。

家庭科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	4.3
評価項目①	課題や小テストを利用して、知識の定着をはかる。	4
評価項目②	メディアセンターや展示コーナー及び教科教室の充実をはかる。	5
評価項目③	実習を通して、達成感を味わえる指導をし、創意工夫能力や生活力をつける。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	意欲的に楽しく授業に臨んでいる姿勢を感じられたことは、自律の精神が育つ上において役立っていると思われる。調理実習などは男女混合班のためお互いが教えあいながら仲良く協力して作業を進め、作業の遅い生徒への気遣いが生徒間で上手にできるようになった。
評価項目①	課題については、高校生はほぼ100パーセントの提出。中学生は不登校の生徒が若干名いるため100パーセントとはいかなかった。繰り返し教えることに力を入れ、小テストをすることで結果を把握することができた。
評価項目②	おもに中学生の授業での製作した作品を展示した。また、特活自由研究での1stステージ・2ndステージの生徒の優秀作品を展示するなど、充実させることができた。余り布によるクリスマスツリーなど年2回の大幅入れ替えも行った。
評価項目③	高校生は実習を通して学んだことを、家庭で創意工夫して実践する生徒が多くなった。中学生は創意工夫までは到達しなくとも、家族が自分のために努力していてくれることが分かるようになり、家庭での手伝いやコミュニケーションが増えてきた。

情報科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	4. 3
評価項目①	課題や小テストを利用して、知識の定着をはかる。	4
評価項目②	情報モラル・セキュリティなどの重要性を理解させ、ICT教育の充実をはかる。	5
評価項目③	資格取得やスキルアップをはかる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	もともとCAI室でのコンピュータ実習授業が主であるため、特に教科エリア型校舎だから充実したということはない。インターネット使用上の情報モラルやセキュリティ・サイバー犯罪の怖さなどを理解し、意識の向上・定着に努めることができた。
評価項目①	毎時間始めに10分間タイピングなどを行った後、課題(Microsoft Officeソフト使用)を提出し、PC操作を踏まえた調べ学習によるレポートなどの成果物が得られるようになった。
評価項目②	各自のIDとパスワードの自己管理、セキュリティの重要性を理解させることができた。アプリケーションソフトやアナログな手法も使い、情報の収集・判断・取捨選択・発信による問題解決、プレゼンテーションを行い、伝えることの難しさや的確な相互評価ができるようになった。
評価項目③	受講生が約30名ずつだったため、個人指導にかける時間が短かったが、情報処理技能検定は40%が2級を合格し、全員が3級以上の資格を取得することができた。また、P検も準2級取得生徒が数名、ほぼ全員が3級以上を取得することができた。

③ 各部署の重点目標

生徒指導部

1) 結果

		評価
重点目標	ルールやマナーを守らせ、よりよい学校生活を送れるように指導・支援する。	3.8
評価項目①	「いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめ防止教育を強力に展開する。	4
評価項目②	校内外においてきちんとした制服の着こなしをさせる。	4
評価項目③	携帯電話の学校内外でのルールを守らせる。	3
評価項目④	インターネットにおいて適切かつ安全な利用ができるように指導・支援する。	4
評価項目⑤	生徒会や委員会の自発的・自主的活動を支援する。	4
評価項目⑥	校内の清掃や整美を徹底させる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	生徒たちは校則をしっかりと守り、規則正しい学校生活を送れている。以前は遅刻者なども多かったが、最近ではその数もだいぶ少なくなった。また、授業も各学年において、落ち着いた雰囲気で行われている。
評価項目①	定期的に「いじめ対策会議」を開き、各学年の状況を把握し、「いじめ」と思われる小さなところから素早い対応をしているため、大きな問題に発展したものはなかった。生徒たちには道徳等を通して「いじめ」に対する概念を確認し、理解させた。
評価項目②	制服の着こなしについては、HRや道徳を使って日頃から生徒たちに話をし理解させた。制服の乱れはキップ指導の対象となるが、指導される生徒は最近減ってきている。
評価項目③	携帯の使用状況は全体的にはルールがよく守られているが、放課後等の時間に使用し懲戒指導を受けてしまう生徒も相当数いた。「歩きスマホ」は加害者にも被害者にもなる可能性があり大変に危険であるため、今年度12月から禁止事項に付け加えた。
評価項目④	本校では定期的に専門業者によるネットパトロールを行い、危険要素のあるものは報告を受けることになっているが、今年度は深刻と思われる報告は1件もなかった。上級生ほど使い方は上手になってきていると思われるが、1stステージの生徒は経験が浅いため自分の情報を載せてしまうこともあった。
評価項目⑤	最近では生徒会がたいへん自発的に行動できるようになってきている。光華祭では生徒会で新しい企画を次々と提案し実施していた。特に後夜祭の企画などは教師に頼るのではなく生徒側が主体となって進行していた。
評価項目⑥	日頃の清掃は各クラスよくできていると思われる。また、学期末、行事前、入試前での年に数回の全校清掃により、さらに校内美化は進んだと思われる。

学習進路指導部

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を生かし、「学びから入る進路指導」を実践する。	4. 4
評価項目①	学習指導要領や中教審答申等の主旨を踏まえ、21世紀型教育推進委員会とも連携して、思考力・判断力・表現力を育てる施策を計画立案、実施する。特に、アクティブ・ラーニングについては、21世紀型教育推進委員会をはじめ、特活LHR科（特活自由研究）やその他の各教科、教務部と連携して、体系的な整備を推進する。	5
評価項目②	生徒の進路意識を調査、把握して、生徒一人ひとりが進路意識を高めるよう、教育相談や三者面談の機能のいっそうの充実を図る。補習・補講体制の充実、向上を目指して、学習支援室・教育相談支援室を有効に活用して、きめ細やかな学習指導・進路指導を行う。	5
評価項目③	各学年（ステージ）の段階に応じた学習進路指導計画を立案し、進路の意識啓発を目指す行事・諸活動を通じて、生徒一人ひとりが自己を高める進路目標をもち、積極的な行動をするよう働きかける。特に、Gyroファイル・手帳の活用について、学年・学級経営と連携して生徒の自学自習の習慣の定着を図るほか、各教科、各ステージ・各学年部、関係各部署と連携し、その教育活動を支援する。	5
評価項目④	大学受験を視野に入れた学習態度、生活態度を涵養する働きかけを行うとともに、キャリア教育や難関大を目指す生徒を支援するプログラムのいっそうの充実を図る。特に、高校の特別講座については、前年度以上に活性化を図り、難関大合格を目指す生徒を支援していく。	4
評価項目⑤	大学進学以外の進路希望分野（看護・医療技術系学校進学希望者、その他の分野の専門学校進学希望者、及び就職希望者）について、適切な情報を提供する機会を設ける。また、海外の大学への進学指導について、21世紀型教育推進委員会と連携しながら調査研究及び情報提供を行う。	4
評価項目⑥	生徒一人ひとりの学習目標・進路目標を達成するために、教科指導力・進路指導力の向上を図る施策をよりいっそう充実させる。校内では、模試分析会その他の研修機会も生かし、各教科・各ステージ・各学年部、校内各部署との連携を図る。また、鶴見大学やその他の大学等と連携し、出張講義などの学びの機会拡充を図る。	4
評価項目⑦	保護者に近年の入試動向を理解していただく機会を設けるとともに、協働して生徒を支援する体制を構築する。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の 総括	教育政策の動向を踏まえつつ、教員研修委員会・21世紀型教育推進委員会と連携して、外部研修会にも積極的に参加して、生徒の「学び」を深めていく為に求められる進路指導力・学習指導力の向上を図ることができた。
評価項目①	思考力・判断力・表現力を育てる施策やアクティブ・ラーニングについて、各教科の授業実践を支援することができた。
評価項目②	タブレットPCの導入により、特に6学年部（高3）におけるICT活用によるきめ細やかな進路相談ができた。教育相談支援員・学習支援員の活躍により、教育相談機能・学習支援機能の向上を図ることができた。
評価項目③	各教科・各学年部との協働を深めることにより、校内模試を滞りなく進行するとともに、年間指導計画に基づいた見通し・振り返りの学習活動や発展的な学習指導の拡充を図ることができた。また、Gyro手帳（能率手帳スコラ・スコラライト）による学習習慣定着への働きかけを強化することができた。
評価項目④	大学受験を視野に入れたガイダンス、予備校・塾との連携など、これまでのさまざまな実践が、難関大合格実績等の進路結果や模試・進路意識調査等の結果に表れてきている。特別講座については、参加者数が前年度を下回った。生徒のニーズを踏まえた魅力ある講座をいかに増やしていくかが課題となった。
評価項目⑤	幼稚園・保育園体験学習、看護体験学習等を通じて、専門職従事者に求められる資質や素養を育む働きかけをおこなうことができた。また、関係各部署と連携して、海外大学への進学指導を含むグローバル教育を進展させることができた。
評価項目⑥	前年度に引き続き、1st・2ndステージでは、Gyroファイルなどによる学習習慣の定着に向けた活動、指名制補習、3rdステージでは難関大受験指導、教養講座等の取り組みで、成果を上げることができた。学期末補講・特別補講・指名制補習などの制度構築が進展したが、日々の補習・補講に取り組みやすい環境作りに課題を残した。
評価項目⑦	生徒・保護者対象または保護者対象の進路ガイダンスを実施、Gyro（進路通信）の発行や情報誌の提供などを通じて、保護者との情報共有を図ることができた。

入試広報部

1) 結果

		評価
重点目標	中学入試・高校入試ともに募集定員を確保する。	4. 2
評価項目①	将来の6カ年一貫化を見すえ、中学募集の強化をはかる。	5
評価項目②	ホームページの充実。	3
評価項目③	募集特に学習塾訪問活動の充実、強化をはかる。	4
評価項目④	校内外で開催される諸入試イベントの充実、強化をはかる。	4
評価項目⑤	情報の有効な発信をはかる。	4
評価項目⑥	他の関係部署との十分な連携をはかる。	5

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	中学入試では入学定員を確保することができなかったが、昨年度より受験者、手続き者ともに増加した。これは適性検査入試、英語入試受験者数を確保できたからだと思われる。高校入試では、受験生の数は去年に引き続き好調であった。
評価項目①	本校での魅力である教科エリア型校舎、21世紀型教育を最大限に活かした説明会を実施するために、各部署がそれを発信するために準備した。説明会での参加者からの評価はある程度高かったと思われる。
評価項目②	最新の行事等の情報は常にアップすることができたが、本体の部分を担当している業者の作成進捗が大幅に遅れたため、的確かつタイムリーな情報発信ができなかった。年度途中から次年度の業者が動画等をアップしてくれた。
評価項目③	校長及び2人の新メンバーの増員により、塾との関係の再構築は進んだと思われるが、他校務との兼ね合いで塾訪問に時間を割くことが困難な状況も多々あった。
評価項目④	校長散歩など新しい企画を行ってきた。配役人数等、可能な範囲の中ではあるが、特に体験学習やブース対応、説明会におけるテーマ設定、画像資料の作成等を中心に、諸イベントの充実と強化をはかり、一定の評価と成果をおさめることができた。
評価項目⑤	中学校回り、入試相談を合わせて計3回実施、ポスター、学校案内等の基本資料以外にも、各中学校卒業生で本校に在籍している生徒の近況を報告、各中学校との情報交換は質、量ともに向上させた。
評価項目⑥	校内外の諸イベントの開催、募集活動、入試業務全般において、教務・事務をはじめとする関連部署とはほぼ円滑な連携をはかることができた。

教務部

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の機能を最大限に生かしながら、教育の更なる充実を図る。	4. 0
評価項目①	(統括) 関係各部署と綿密に連絡を取り合いながら、校務を円滑に運営する。	4
評価項目②	(運営) 昨年に引き続き、年間計画および各行事等を円滑に運営するとともに、教科エリア型校舎のメリットを最大限に生かし、施策のテーマが円滑に遂行できるように各部署との連携や調整をはかる。	4
評価項目③	(文書) 定期テスト・各種模試を円滑に行うために綿密に計画を作成する。また、電車遅延など非常時に対応できるよう各部署との連携をはかる。	4
評価項目④	(統計) 学校内の情報を丁寧に処理し、その把握に努め、各部署との連携をはかる。	4
評価項目⑤	(情報管理) 年間のスケジュールを作成、配布することによって部員全体で部署内の仕事の把握を行う。また、新・旧部員を各担当に配置し、旧部員が新部員に作業を説明することにより、仕事量を適正に分担する。	4
評価項目⑥	(体験・研修交流事業部) 1 学年部English Campの実施。2 学年部English Campの実施準備。遠足プランの再検討。高校研修旅行プランの再検討。海外学生との交流機会の拡大。	4
評価項目⑦	(修徳) 建学の精神をふまえ、日々の黙念を大切にし常に自己をしっかり見つめ、他者への感謝と思いやりを忘れず、何事にも目標・計画・熱意をもって一生懸命に取り組む。	4
評価項目⑧	(文化事業) 音楽会・講演会等イベント・機関誌鶴の林の内容を充実させる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	教科によって多少の差はあるが、各フロアの教科ごとに工夫を凝らし、生徒の教育成果を高めようと努力する痕跡が随所に認められている。社会科・芸術科の展示コーナーの活用、展示ボードの有効利用、四階教科教室を活かしたイングリッシュラウンジでの国際理解への気持ちの定着に向けて教務部という部署から更なる充実を図りたい。
評価項目①	教務部長会議が時間割の中に組み込まれたことで年間会議回数が確保され、予定通り早急の見直し業務とされていた内規を終了させることができた。しかし入試業務では部内でインフルエンザを発症する者が多数出て、人員の手配に苦慮した。
評価項目②	各行事を滞りなく実施することができた。より円滑に運営できるよう、改善点を検討していきたいと思っている。また、体育祭と光華祭では、生徒が主体的に各任務をスムーズに遂行できるようになってきている。
評価項目③	別室受験に監督を配置したり、保健室や学習進路指導部との連携により円滑に進めることができた。

評価項目④	今年度は時間割の大幅な変更がなく、年間を通じて安定した授業設定ができた。各種調査に関しては、他の部署とも連携しデータや資料を作成できた。夏期講習や臨時監督配置等も適切な資料を提出できた。
評価項目⑤	年間の作業手順書を作成したことによって、今年度新しく配属された教員にもスムーズに業務を説明することができた。今年度初めて行われた処理作業に関しては、戸惑うところがあった。
評価項目⑥	国際交流の部門では、外国の高校との交流機会を1回増やすことができた。また新しい形での海外研修（短期留学）の検討に入ることができた。
評価項目⑦	黙念で始まり黙念で終わる本校の学校生活において、日常生活ではなかなか設けることの出来ない厳粛・静寂な朝礼の時間を、自己理解の時間として大切に過ごしていた。黙念で心を落ち着け、読経・聖歌では集中力を高め、前向きな姿勢で授業に向かうことが出来ていた。
評価項目⑧	芸術鑑賞会は落語を選択、校内寄席を実施し、生徒はもちろん職員も楽しめ、古典芸能の良さを再認識することができる企画となった。鶴の林はスタッフの努力により、多くの生徒、職員の作品を掲載しており、学校の顔の一つとして機能している。

事務室

1) 結果

		評価
重点目標	係の枠を越えて事務職全員で事務全般業務を強固とする。	3. 3
評価項目①	事務職内のコミュニケーションを密にとる。	4
評価項目②	学校の有益を自分で判断し行動にうつす。	3
評価項目③	各自取り扱う業務のマニュアル整理。	3
評価項目④	事務職員の職務内容を構築。	4
評価項目⑤	全ての省エネルギー化に率先して努める。	3
評価項目⑥	新システムに早めに慣れ、効率化と他業務への優越に努める。	3
評価項目⑦	施策の体系工程表に基き、自校史資料の保存に努める。その為の保存場所の確保する。	3
評価項目⑧	紙媒体の資料について、適切な保存方法を研究し、保存に努める。	3

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の 総括	3部門の事務系統がある中、系統により勤務状況の偏りが発生してしまった。 少ない事務職員の中で、行事等による業務人手不足のフォローを事務全体で行った。
評価項目①	常に声を掛け合い、それぞれの職員が今抱えている職務の状況を周知できるようにし、いざと言うときには手助けできるよう努めた。更には事務職内にとどまらず、教務・広報・保健・統計・学年・各教科ともコミュニケーションをとるよう心がけた。
評価項目②	金銭的な有益面だけでなく、学校にとって有益となる人的配置（代休や有休の取り方）にも気を遣うよう努力した。
評価項目③	日常業務に関しては構築しつつあるが、年々取り扱う業務が増えていき、年間行事の各業務のマニュアル整理には完成に至っていない。
評価項目④	長年にわたり担当している職務に関しては、各自及び事務職員内で把握しており、今年度もスムーズに遂行できた。但し、新たに発生した業務等（経理新システムに伴う決裁処理他）は、担当の構築に手間取った。
評価項目⑤	予算経費を伴う事業工事にはなかなか着手できないのが現状である。現段階では色々な方面からより良い提案を進めるべく、資料等の収集に努めている。 生徒への配慮から、冷暖房に関しては省エネとは逆の運びとなることもあった。
評価項目⑥	新システムと既存の管理方法とで不具合があり、スムーズな管理はできていない。 今後は業者との打ち合わせの機会を設けて、ひとつひとつ解消し、効率化へ進めたい。
評価項目⑦	書庫を保存場所と定めた。そのためには汚損・破損図書を排出しなければならず、これからも継続的に作業を実施していく。
評価項目⑧	初期の卒業アルバムについて、今年度は14冊DVD化した。古い鶴の木の保存方法に関しては、劣化状態も一様では無いので今後の課題とする。

管理部門

1) 結果

		評価
重点目標	施策の体系を計画的に実施するために、関係部署と連携を図りながら確実に実行できるよう務める。	4. 6
評価項目①	双輪会・同窓会・鶴見大学・本山との連携を強化する。	5
評価項目②	探究型教育・グローバル教育・ICT教育の推進のため、21世紀型教育推進委員会活動を支援する。 また、教員用・生徒用タブレット端末の導入を支援する。	5
評価項目③	禅の精神に基づく心の教育を実践するため、坐禅堂の活用や他校の情操教育の調査研究を進めるよう支援する。 寮監配置体制を本山と連携しながら整備する。	4
評価項目④	校外研修の再構築を、体験・研修交流事業部と連携しながら進める。	5
評価項目⑤	国際教育充実のため、英語科や国際交流係と連携しながら進める。	5
評価項目⑥	生きがいのある魅力ある職場づくりのため、就業規則・給与体系の見直しに着手する。また、研修制度の充実や「チーム学校」の体制を研究し、教員ができるだけ教育指導に専念できるような学校組織づくりを目指す。	4
評価項目⑦	教務部と事務部が連携し、相互の業務の再編を図る。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	昨年度より始めた施策の体系を工程表に基づきながら、概ね予定通りに実施することができ、項目によっては前倒しで取り組むことができています。
評価項目①	双輪会とは、昨年度からの体育祭での受付業務の協力に加えて、新たに文化祭での双輪会ブースでの協力をいただく仕組みを取り入れた。 同窓会とは、生徒の部活動の活性化のために予算に「生徒部活動助成金」計上していただき、吹奏楽部や硬式野球部の楽器や備品の購入費の補助をお願いした。 大学との連携は、従来の施設見学会・施設の相互利用・中学受験生対象の歯学部体験イベントや講師の派遣・文化財学科の体験学習などに加えて、来年度の中高の文化祭での大学のブースを設ける計画を模索中である。 本山とは、例年に引き続き「つるみ夢ひろば in 總持寺」へ吹奏楽部が参加し、生徒のボランティア活動の一環として、2学年（中2）・4学年（高1）が本山の清掃活動を行うなど、積極的に連携を図ることができた。
評価項目②	21世紀型教育推進委員会の探究型教育・グローバル教育・ICT教育の各グループリーダーに中堅教員を任じ、定期的に委員会を開催して諸課題を検討した。校内研修会も支援し、大きく前進することができた。また、HPや進学雑誌などを使って对外発信も積極的に行った。 生徒用タブレットを、7月初旬に60台、教員用タブレットは、非常勤講師も含めて全教員に貸与し、8月には取扱い説明も含めた研修会を実施した。2学期からは、21世紀型教育推進委員会のメンバーらが率先して、生徒用タブレットの授業での本格的活用を行っている。

評価項目③	<p>坐禅堂の活用については、今年度より校長が在校生及び受験生の保護者や、一般の方を対象とした坐禅会を4月から2月にかけて7回実施し、回を重ねるごとに参加者も増えた。</p> <p>寮監が今年度より交替したこともあり、定期的に運営委員会で諸課題の共有・解決について話し合った。また、安定的な寮監の確保のために、本山とも話題を共有し理解を求めて意見交換を行った。</p> <p>情操教育の調査研究は、他校の状況などをさらに把握したい。</p>
評価項目④	<p>第1回1学年部イングリッシュキャンプ及び次年度からの2学年部実施に向けて、今年度は有志イングリッシュキャンプを実施することができた。また、体験・研修交流事業部に5学年部広島・関西研修旅行や遠足の業者再選定も含めた検討を指示し、今後数年間に亘る計画を構築することができた。また、それらの校外研修に際する各種保険や雑費の扱いに関する仕組みも整えることができた。部署の苦労に感謝したい。</p>
評価項目⑤	<p>21世紀型教育推進委員会のグローバル教育研究グループや英語科と協力しながら、鶴見にある「横浜市国際学生会館」との連携事業そして留学生に協力を頂き、放課後の「イングリッシュラウンジ」を軌道に乗せることができた。</p> <p>また、昨年度より始めたマレーシアの高校生との国際交流会も今年度は2回実施することができた。さらに、鶴見大学の国際交流センターとの連携も今後進めたい。</p>
評価項目⑥	<p>「チーム学校」の考え方のもと、昨年度より始めた学習支援員（チューター）・教育相談支援員・部活動支援員（コーチ）の増員をはかり、教職員の負担を軽減して、本務である教育力の向上を図ることができた。</p> <p>また、法人契約の社労士とも相談しながら、諸体系の見直しに取り組みはじめた。次年度以降さらに進めたい。</p>
評価項目⑦	<p>学校という教育現場で、教育系と事務系の業務の実態を把握し、連携が可能か十分話し合い、段階的な再編の実施を年度当初の目標に定め、まずは現時点で抱えている問題点の整理に当たった。今後は構築案を作成し、新体制確立のための条件や必要経費も考えながら進めていきたい。</p>